ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１９１

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第二十四回勉強会（通年内容は[年表rev.9](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)参照方）の準備**

**Theology of the people（主権民の神学）**

20160603 rev.1 齋藤旬

**西洋では中世から近代にかけて、主権者（sovereign）がthe pope, the kings, the peopleと移ってきたことは**[**コラム１６９**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2015/20151218%20W169%20%20sovereignty/20151218%20W169%20%20sovereignty%20rev1.docx)**で述べた**。

the peopleが主権者だと認める時代には、「不可譲不可奪（unalienable）なeach person’s dignity」と「共通善（the common good）に背いて使用したときのみabuse（濫用）とされるrights of freedom」を規定した憲法（および権利章典など）と神学（theology）が必要になる。･･･というか順序が逆で、人々が「そうだ」との思いを強くした後に、憲法と神学にそのことを規定させることによって、the peopleが主権者である時代が到来する。

**米国のEvangelicals（福音派キリスト教）は**、独立宣言（1776年）前の18世紀初頭からこの様な議論を頻繁に行い、19世紀半ばにはTheology for the peopleというものを形成した。[[1]](#footnote-1)

　カトリックはそれより百年以上遅れて、このほどTheology of the people[[2]](#footnote-2)を形成し大々的に発表した。

**Theology of the peopleの最大の旗振り役が**、2013年に前教皇から事実上の生前禅譲を受けた現教皇フランシスコ、即ちホルヘ・マリオ・ベルゴリオ氏。つまり、カトリックが今、根本的に変わろうとしている。popular sovereignty（sovereign peopleも同じ意味）を認め、民主主義（democracy）を積極的に認めようとしている。[[3]](#footnote-3)

**論文『**[**Pope Francis and the Theology of the people**](http://tsj.sagepub.com/content/77/1/118.abstract)**』（英語版）が先月末に発行された**。

36ドル。早速購入して読み始めた。そこにはTheology of the people（以下TP）をTheology of liberation（解放の神学、以下TL）と比較して四つの特徴が述べられている。

(1) use of historical-cultural analysis (*el analísis histórico-cultural*), privileging it over structural social analysis (*el analísis socio-cultural*) without discarding the latter;

(2) employment of more synthetic and hermeneutical sciences such as history, culture, and religion (as complements to more analytical and structural sciences) as a form of mediation to get to know reality and to transform it;

(3) rooting of such scientific mediations in a sapiential knowledge and discernment for the sake of the “the affective connaturality born of love” (EG 125), which, in turn, confirms their scientific character; and

(4) taking a critical distance from the Marxist method of social analysis and its categories of understanding and practical strategies.

1. 社会構造分析よりも歴史文化分析を多用する。（前者を全く使わないわけではない）
2. 構造分析科学を補完するものとしての --- 歴史、文化、religionなどを統合する解釈科学（hermeneutical sciences）を用いて、realityを知るための仲介（mediations）を獲得し、realityをtransformしようとする。
3. 「愛から生まれる自然な感情」（[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html) 125）を成り立たせるための上智の一つ（a sapiential knowledge）と識別力（discernment）を持ち、上記の様な科学的仲介を支援する。見方を変えれば、その科学性をconfirmする。
4. the Marxist methodに対して批判的距離を保ち、その社会分析手法と社会分類理解とを批判し、その実践的戦略と距離を置く。

**ここには、TL（解放の神学）がsciencesとMarxismに寄りすぎたことを修正しようという意図が感じられる**。言わずもがなだが、共産主義や社会主義で言うpeople（日本語ではしばしば「人民」と和訳される）と、theology of the peopleで言うthe peopleとは、意味が異なる。その最大の違いは３）に示されている。即ち、theology of the peopleで言うthe peopleは、「愛から生まれる自然な感情」（[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html) 125）を成り立たせるための上智の一つ（a sapiential knowledge）と識別力（discernment）を持っていることが特徴だ。つまり[コラム１６９](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2015/20151218%20W169%20%20sovereignty/20151218%20W169%20%20sovereignty%20rev1.docx)での齋藤流の表現で言えば、「righteousnessとsinを判別する力」を持っていることがthe peopleの特徴だ。

**IR4（第四次産業革命）の和訳作業ファイルrev6を**[作業ファイル](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/IR4/The%20Fourth%20Industrial%20Revolution%20by%20Klaus%20Schwab%20revX.docx)**に**アップしておいた。

Productivity 生産性 26-28

を和訳した。「私達は経済学の教科書を全面的に書き直す（rewrite）必要に迫られている。」と「”secular stagnation”とは、しつこく続く需要不足を意味し、貸出金利をほぼzeroにしても克服できない。」とは、日銀関係者に是非読んで頂きたいと感じた。

今週は以上。来週も請うご期待。

1. 韓国キリスト教は、軍事政権圧政に苦しんだ1970年代からTheology of the peopleの検討を開始し、[民衆神学](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%91%E8%A1%86%E7%A5%9E%E5%AD%A6)（発音はミンジュンシナクだそうだ）を形成した。 [↑](#footnote-ref-1)
2. Theology of the peopleを「主権民の神学」と齋藤は和訳した。民衆よりも主権民とした方がthe peopleが持つ意味をハッキリと表すと考えた。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 例えば、フランシスコ教皇が発行した論文[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html)にはthe sovereignty of each nation (207)--- 各民族の主権 --- という表現が出てくる。また、[*Laudato Si’*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html)にはthe sovereignty of individual nations (38)、sovereign society (177)という表現も出てくる。人々や社会が持つsovereigntyをここまで肯定的に捉えた教皇はフランシスコが初めてだ。彼が昨年九月米国を訪問した際は、ABC放送の特番「[Pope Francis and the people](http://abcnews.go.com/US/fullpage/pope-francis-people-33178200)」にも出演し、米国下院上院合同会議では民主主義を肯定する演説（[コラム１８３](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2016/20160401%20W183%20Pope%20Francisco%20at%20US%20Congress/Pope%20speech%20at%20US%20cxongress%20WAYAKU%20rev1.docx)）を行った。 [↑](#footnote-ref-3)